

検査の予習

「内視鏡検査」は

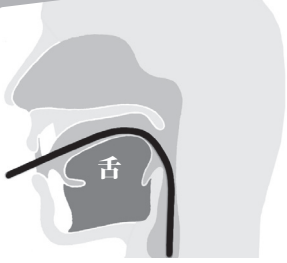
どちらを選ぶ？

食道や胃、十二指腸などを調べる内視鏡検査では、体内に内視鏡（カメラがついた細長い管）を入れてモニターで様子を確認します。

「胃カメラを飲む」と言われたように、かつては「口から」の検査が一般的でした。近年、技術の進歩により細い内視鏡が登場し、より苦痛の少ない「鼻から」の検査が行える医療機関も増えています。

ただし、2つの検査法には体への負担のほか、精密さや、ポリープの切除に適しているかなどの処置や治療の適正に違いがあります。「内視鏡検査を受ける目的」を医師ときちんと相談し、それぞれのメリットとデメリットを理解して検査を受けることが大切です。

経口



精密な検査が必要な人や、事前の検査結果から治療・処置が必要になると想定される人

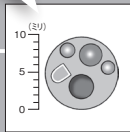
経鼻



自覚症状がなく人間ドックなどで受ける人や、経口内視鏡でつらい経験をしたことがある人

経口内視鏡

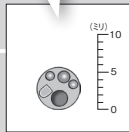
直径7～10mm
(鉛筆より太い)



管の太さ

経鼻内視鏡

直径5mm程度
(鉛筆より細い)



体の負担

精密さ

治療・処置

- 舌の根元に触れることがあり、吐き気が生じることも。
- 鎮静剤を使った場合は、検査後1時間ほどの安静が必要。
- 先端のライトが明るく視野が広い。表示される画像も鮮明で高画質。
- 内視鏡を通じて器官などを挟む鉗子^{かんし}などの器具を体内に入れ、検査をしながらさまざまな処置・治療ができる。

- 舌の根元に触れないため、鼻の異物感はあるが吐き気はほとんどない。
- 検査中に医師と会話できる。
- 検査後は短時間で帰宅できる。
- ライトが小さいため、視野が狭くなる。画像の鮮明さもやや劣る。
- 内視鏡が細く使える器具が限定され、止血やポリープの切除などには適さない。操作が難しく検査に時間がかかることも。

※経鼻内視鏡は鼻腔が狭い等の理由で管が入らないときや、悪性の疾患が疑われ処置が必要なときには、医師の判断で経口内視鏡に変更される場合があります。

「内視鏡検査」

費用……6,000円程度（検査機関等により異なります）

所要時間……カメラ挿入に5～10分程度。麻酔や血液検査を含めても全体で1時間程度。

その他……スプレーやゼリーで局所麻酔を行うため、痛みを感じることはほとんどない。

予習メモ